原水爆禁止 2015 年世界大会と平和行進、３・１ビキニデーの報告

2016 年 3 月　八戸原水爆禁止の会

Ⅰ　原水爆禁止2015年世界大会

（１）世界大会報告会

8 月 21 日、八戸原水爆禁止の会は八戸市福祉公民館で原水禁世界大会報告会を開催、23 人が参加しました。

県教組三八支部の小泉真さんが最初に報告、50 歳で念願の原水爆禁止世界大会に参加することができたと述べました。中１の息子と一緒に、新幹線を使わずに、往路は長距離夜行バス、復路は青春 18 切符で八戸－広島を移動したのだそうです。親子で動く分科会－「被爆電車に乗って」に参加した印象と直後にＮＨＫで「一番電車が走った」を見て内容を迫真的に感じたことを報告しました。世界大会で発言に真剣に耳を傾け拍手を送っていた息子さんのことをうれしそうに語りました。

新婦人八戸支部の高橋眞理子さんは、日本母親大会の戦争法案反対の熱気がそのまま引き継がれた印象だったと述べました。「その場所に立たなければ分からないことがある」と、世界大会に参加し、広島で感じたことを大切に思う気持ちを発言しました。原爆の子の像に千羽鶴を捧げ、鐘を鳴らした後、平和公園をめぐるときに浮かんだという自作の詩「鐘を鳴らせ 鐘を鳴らせ 魂を揺さぶるほどに鐘を鳴らせ(以下略)」を読み上げて報告を結びました。

医療生協の佐々木啓太さんは、核兵器はどんな意味でも存在がデメリットだとの発言を紹介しました。沖縄・辺野古の工事中止が大会で報告された際は、他人事と思っていたことが身近に感じられたと述べました。動く分科会では、本川小や広島大本営跡、原爆の閃光で階段に残された人の影、板に残された黒い雨等を見て、戦争・被曝の実態を知ったと印象を述べました。

参加者からは、「(小泉さんの報告は)授業に生かすことができれば良いと思う」、「とても良い報告で感動した」等の意見がありました。



（２）世界大会報告

被爆 70 年を転換点に

原水爆禁止 2015 年世界大会参加報告

青森県教職員組合三八支部・小泉真

１，はじめに

昭和４０年。私は、戦後２０年の年に生まれた。戦後７０年の今年は、生誕半世紀になる。

原水爆禁止世界大会参加は、組合員として長年の夢であった。

５０才という記念の年、ついに念願が叶った。後押しをしてくれた八戸原水爆禁止の会と青森県教職員組合三八支部には大感謝である。この感謝の気持ちを込めて報告したい。

２，旅　程

次世代へ繋いでいくという思いもあり、今年中学１年生になる息子と二人で参加した。夏季休暇を取り時間があったので、新幹線を使わない旅をしようと考えた。往路は、長距離夜行バスを新宿で乗り継ぎ広島へ。東京では、一日時間があったので、靖国神社参拝と、新宿住友ビルにある「平和祈念展示資料館」見学をした。復路は、青春１８きっぷを使って途中下車の旅だった。知り合いに会って泊めてもらったりホテル泊をしたりした。すべて各駅停車の普通列車で帰ってきた。

３，８月４日（火）

０９：００広島着の長距離夜行バスだったが、少し遅れて広島に着いた。青森県原水協団と合流したのは、１１：００ごろ原爆ドームの前だった。



原爆ドーム（ユネスコ世界文化遺産）
「負の遺産という言葉が重かった。」

原爆ドームの名で知られる広島平和記念碑は、元は広島県物産陳列館として開館し、原爆投下当時は広島県産業奨励館と呼ばれていたそうだ。館の中にあったらせん階段が近所の子どもたちの遊び場になっていたという話をガイドさんから聞いた。

ガイドさんとともに、爆心地に向かった。爆心地は、原爆ドームから東に向かって徒歩１０分程度のところにある島外科内科であり、そこには爆心地である碑が置かれていた。米軍Ｂ－２９爆撃機「エノラ・ゲイ」が、本川が分岐する地点に架けられた相生橋を目がけて原子爆弾を投下したことや、地表温度が 3,000 ℃に達したこと、0.8 秒後に秒速 440 メートル以上の爆風が襲ったことなど、ガイドさんの詳細な話をその地点で聞くことにより、７０年前のリアリティーが頭の中に思い描かれた。



爆心地（島外科内科）
「70 年前も暑い日だったのだろう。」

平和祈念公園内に数多くある碑の中で特に私が関心を寄せたのは、「原爆の子の像」。像のモデルである佐々木禎子さんの同級生らによる募金運動により作られた像であることを知った。隣に折り鶴をかける場があったので、五戸小学校職員と子どもたちが協力して作った折り鶴を捧げた。

昼食にみんなで府中焼き(お好み焼き)をいただいた後に、広島県立総合体育館・グリーンアリーナへ向かい、2015 年世界大会開会総会に出席した。白地にリンゴマークが入った青森県原水爆禁止協




議会のビブスを被り、ハトのマークが入ったピンクバッチを着けた。広島市長や宝田明さんのあいさつを始め、海外国内各団体から平和を祈るたくさんのメッセージが発せられた。

夜は、ホテル内レストランで結団式・夕食交流会が行われた。青森県内各地から結集した、21 才から 70 才までの男女 20 名あまりが自己紹介をし、アジア料理を食べながら交流を深めた。

相部屋だった谷崎嘉治さんと松島明さんには、三日間にわたって親子共々大変お世話になった。

４，８月５日（水）

私ら親子は、動く分科会１６「被爆電車に乗って」に参加した。戦時下では男手が足りず、１５～１６才の女子学生が広島電鉄の運転をしていたということ、原爆投下から３日後に電車が一部で動き始めたこと、被爆電車が残っていて現在も乗られることなどを知ることが出来た。また、８月１０日に放映されたＮＨＫテレビドラマ「一番電車が走った」は、分科会で学んだばかりであったこともあり、内容が迫真的に感じられた。



被爆電車（昭和 17 年製造）
被爆後修復され現在も活躍。

５，８月６日（木）

最終日は、いよいよ広島原爆の日。まずは、８時から行われた広島市原爆死没者慰霊式・平和祈念式を外野から見学した。印象的だったのは、安倍晋三首相があいさつをしている最中の緊張感。はるか遠くに見える首相に向かって、「戦争法を廃止せよー。」と、ヤジをとばす男性とその近くに構えるＳＰ。モニターに向かって、「安倍政権を許さない」のポスターを掲げる青年。誰がどう見ても、安倍首相が言う「米国の母屋ではなく離れが火事になったら、消火を手伝うのだ」という安全保障関連法案を信用せず、「戦争法案」だと叫ぶ者の集まりであった。明らかに憲法違反の安保法案を通そうとする首相であるが、この法案を廃案にするためには、民意の団結が必要であることを改めて感じた。





その団結力を感じたのが、１０時３０分から行われた「被爆７０年ヒロシマデー集会」。「NO WAR NO NUKES（戦争も核兵器もいらない）」「戦争法あかん」と書いた横断幕や垂れ幕で埋まっていた。

６，おわりに

戦後７０年間、日本人において「殺す、殺される」戦争の犠牲者をつくらず、新たな核兵器使用による犠牲者をつくらせなかった背景には、広島・長崎の被爆者を始め、世界の活動家と草の根運動する方々の多大な努力があったことを感じた。この努力をムダにするような法案には、断固して反対運動をしていきたい。

原水爆禁止2015年世界大会に参加して

三戸町立三戸中学校　１年　小泉　駿

ぼくは去年、6 年社会の学習で広島と長崎に原子爆弾が投下されたことを勉強しました。教科書は、「原爆の投下と戦争の終わり」というタイトルでした。勉強したときは「戦争の被害にあった人たちはかわいそう。」くらいにしか感じず、そんなに深くまで考えてはいませんでした。中学生になった

今年、父から「夏休みに一緒に広島に行ってみないか？」と言われました。正直言って夏休みは友達と遊べるチャンスなのでどうしようかと思いましたが、母からも「いい勉強になるから行ってみたら。」と言われ広島に行くことを決めました。

東京からの夜行バスで広島についたのは朝の 9 時過ぎでした。最初に原爆ドームに行きました。教科書で見た原爆ドームは古い建物というイメージでしたが、実際に見たドームは周りに建物や木があり、色があるので、まるで昨日まで使っていたものが、一瞬で崩れてしまったかのような感じがしました。その一瞬が 70 年前にあったかと思うと悲しくなってきました。

広島平和記念資料館も見学しました。1945 年 8 月 6 日に何が起こったのかを伝える写真、真っ黒焦げの弁当箱、ぼろぼろに破けた服、ぐにゃりと曲がった自転車。正直言って、気持ち悪いと思いました。70 年前の同じ夏、この場所は言葉にならないことが起きたことが数多くの資料から分かりました。

広島から帰ってから見たテレビニュースで、「あなたは原爆が落とされた日を知っていますか？」という質問に対して、20 代のたくさんの人たちが、知らなかったり間違えて答えたりして、驚きがかくせませんでした。ぼくは、戦争と平和をしっかりと学び、次の世代につないでいかなければならないということを感じました。

原水爆禁止 2015 年世界大会のステージでたくさんの方々のスピーチを聞きました。聞いている人たちが「そうだ、そうだ。」と共感をしていました。ぼくも拍手を送りました。このようにして、世界中のみんなが「戦争はなくしていこう」と考えていけるのだと思いました。

原水爆禁止2015年世界大会参加報告

八戸医療生活協同組合・佐々木啓太

・原水爆禁止2015世界大会に参加して、実際に被爆された方のお話や、多くの資料を見聞きすることで得られたものを、拙い文章で恐縮ではございますが報告させて頂きたいと思います。

・開会式での来賓の方々からのお話の中で、「核兵器は食糧問題を解決するか、ＮＯです！核兵器は生活を豊かにするか、ＮＯです！核兵器は環境問題を解決するか、ＮＯです！核兵器の維持にかかる350億ドルで様々な問題が解決する！」というお言葉がありました。このお話は核兵器の存在が私たちにデメリットしかもたらさないことをたいへん分かりやすく教えてくれるものだと思います。



青森県からの参加者

・2日目の分科会で被爆者の家族の方から、「被爆者に対する医療は存在せず、被爆医療があるとすればそれはただ一つ、被爆者をつくらないこと、これが唯一の被爆医療です」というお話がありました。被爆は人災であり、人災である以上、核兵器または被爆の恐れがあるものをこれ以上作らせないよう呼びかける活動が、本当に大事なことだと痛感しました。



本川小学校



峠三吉さん詩碑

ちちをかえせ　ははをかえせ
としよりをかえせ
こどもをかえせ
わたしをかえせ　わたしにつながる
にんげんをかえせ
にんげんの　にんげんのよのあるかぎり
くずれぬへいわを
へいわをかえせ

・閉会式にて、キム・ウォンス国連軍縮問題担当上級代表が、「日本は戦争をしないことでここまで発展してきた」と仰いました。

私は戦時中、また戦後すぐの日本を知っているわけではありませんが、本当にその通りだなと思いました。日本はこの70年間、戦争をしないことで医療や社会保障がここまで発展し、憲法25条にある健康で文化的な最低限度の生活を多くの国民が維持できているのだと思います。現在審議されている安保法案（戦争法案）が可決されてしまえば、現在よりも多くの国の財源・資源が自衛という名目で戦争へ流れてしまうでしょう。それは日本という国の停滞を意味し、日本が世界に誇る憲法第9条を放棄し、さらには第25条で定められている生存権を侵害するものです。このことはこれからの私たちや将来の世代の生活を守るために、絶対に阻止しなければならないと思います。



原爆の子の像

・最後になりましたが、今回の原水爆禁止2015世界大会に参加させて頂きまして誠にありがとうございます。

また、今年で被爆者の方の平均年齢が80歳を超え、被爆された方の生の声を聴くことが出来る時間はそう多く残されてはおりません。そういう意味でも大変貴重な機会を頂いたこと本当に感謝しております。

この経験を自らの糧として今後の自身の在り方、行動に活かしていくことを約束し、参加報告とさせて頂きたいと思います。本当に有難うございました。



原水爆禁止2015年世界大会。広島に参加して

新婦人八戸支部・高橋眞理子

２０１５年８月４日から６日まで、初めて参加した、原水爆禁止世界大会でしたが、戦後７０年という事で､安倍首相が今国会で是非成立をと目論んでいる安全保障関連法案への反対行動とも重なり、これまで以上に熱気に満ちたものでないかと感じている。

私の場合は特に、神戸での日本母親大会を経由しての参加だったので、戦争反対への熱い思いは、

１６００人を集めた５日の「女’性の集い」にも、そのまま引き継がれた。

そして最終日、６日の午前中に行われた広島市主催の平和式典の、安倍首相などの式典挨拶等とは比較出来ない程の、揺るぎない核兵器廃絶への熱気に包まれた閉会式。

共産党の志位和夫委員長の「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキの願いが憲法９条に込められている」の挨拶で、「憲法９条は世界に誇る宝」の意味をより深く実感でき、実際に被爆地広島を、見て、歩いて、聞いて得たものの大きさに、改めで感動し興奮していた。

だが正直、今年の行動の中で、広島は予定に含まれていなかった。戦後７０年もようやく５月頃から意識に上るようになり、その中で漠然と広島に行きたいなと思っていた程度だった。コープの広島派遣事業があったが、２０１３年に沖縄戦跡の旅に派遣されているので、応募出来ない状態だった。



ところが、新婦人の定例班長会議で、日本母親大会と広島原水爆禁止世界大会の話が出て、「同じ人間が二つに参加すれば旅費は半分で済むよね」と、つい一言。「そうだけれど、そんな長い期間家を空けることの出来る人はいないのよね」の返事に、「それなら私が行きます」と即答してしまった。

いつも、「その場所に立たなければ分からないことがある」という思いで行動して歩くのだが、２０１３年のあの沖縄での体験のように、今回の広島もまさしく、本や映画や映像とは違う、もっと強烈な事実の検証を与えてくれた。

しかし、初めて広島の平和公園を訪れた私の眼には、戦争の悲惨さを象徴する原爆ドームでさえ、ボランティアガイドからの詳しい説明を受けなければ､目新しい前衛彫刻・モニュメントにしか映らなかったかもしれない。

それほど、広島平和公園は夏の日の穏やかな賑わいの中にあった。

実は参加する意思を表明した後で、この世界大会が、新婦人八戸支部での１０年ぶりの派遣であると言う事実を知った。新聞に投稿された文章には、この大会派遣にかける熱気が伝わってくる。ＮＰＴ（核不拡散条約）再検討会議にむけた核兵器全面禁止の国際署名、３０００名署名をやりきったといういきさつが。私がそれほどの熱情でこの行動を支えていたかというと、疑問である。新婦人の活動と広島・長崎の原水禁大会とが、そもそも結びついていなかった。それほどの意識の低さで派遣されるのはさすがに心苦しい。ふと思いついたのは、千羽鶴を作ることである。期間は短かったが、多くの人の協力を得て出来上がった千羽鶴は、－足先に広島へと旅立って行った。

そして、広島平和公園の「原爆の子の像」の後ろにある千羽鶴の館？に私の手で無事に納めさせて頂いた。鐘を鳴らし、祈り、証拠の写真も撮り、皆さんへの報告も出来たが､その場所に凄い数の千羽鶴が収められていた事に驚いた｡私の後からも､次々と沢山の人が訪れていた。毎日毎日、多くの鶴がこの像に手向けられるという。

「原爆の子の像」のきっかけとなった少女、佐々木禎子さんは爆心地から１．６キロ離れた自宅で被爆したが、無傷であったという。しかし、１０年後の小学６年生の時に亜急性リンパ性白血病を発症。全快を祈り、千羽鶴を折り続けたが、願いもかなわず１０月２５日に永眠。甲状腺の癌も発

症していたという。原爆の放射線による後遺症と考えられているが、アメリカは「放射線の後遺症・内部被ばく」を認めていないという。彼らの関心は、爆発の威力でどれだけの殺傷能力を持っているか…であったのだと。しかし、多分現在は福島原発事故による被曝も含めて、世界的に貴重なデータとして、密かに詳細な調査研究の対象にしているのだと思う。



中学生たちの活動により、１９５８年５月５日にその像は建立除幕されたという。そのドーム型の台座の上で、折り鶴を支え持つ少女像の碑文には「これは私たちの祈りです。これは私たちの叫びです。世界に平和をきずくための」とある。

説明を受けながら、平和公園の中を巡っていた時に、不意に詩が浮かんだ。

鐘を鳴らせ　鐘を鳴らせ
魂をゆさぶるほどに　鐘を鳴らせ
ヒロシマの地で　多くの祈りがささげられ
幾千万と折られた千羽鶴が　大空へと旅立って行った事か
多くの涙が流され　多くの苦しみが語られ
原爆が落とされたこの地に
多くの命が　足を踏み入れたと言うのに
怨念を抱いたままの魂は　無数の蝉の声として響きわたる
鐘を鳴らせ　鐘を鳴らせ
眠れぬほどに　鐘を鳴らせ
戦後７０年の　平和の絆を
無残にも断ち切ろうとする者たちが　闇の中でうごめいている
鐘を鳴らせ　鐘を鳴らせ
耳をそばだて　音の彼方を追いかけろ
正義の剣を　振り下ろせ　歩みを止めるな　旗を掲げろ
鐘を鳴らせ　未来永劫まで鳴り響く　鐘を　今こそ鳴らせ

貴重な体験をさせて頂いた旅を深く感謝いたします。

Ⅱ　2015年原水爆禁止国民平和大行進

◇６月４日

平和行進が上十三地区から三八地区に引き継がれました。まつりんぐ広場から市庁前市民広場までの合同行進と市民広場で行われた引継集会には 150 人が参加しました。集会では、平和行進リレー旗と横断幕が上北から引き継がれました。とても協力的だった自治体訪問の様子等も報告されま

した。北海道－東京(太平洋)コースの全国通し行進者・五十嵐成臣(しげおみ)さんが日焼けした元気な姿を見せました。警察が誘導してくれたので、とてもスムーズな行進になりました。

◇６月５日

平和行進二日目。市民広場から司法センターまでの市内行進で、大竹事務所のみなさんが出てきて手を振ってくださいました。南部町では町長と懇談、三戸町は副町長と懇談することができました。田子町、階上町も訪問し、賛助をいただきました。



６／４上北と合同の市内行進



五戸町行進

◇６月６日

平和行進三日目。五戸町(役場訪問は４日)、新郷村(役場訪問は４日)、三戸町を行進した後、岩手県二戸市金田一温泉駅前で岩手県に引き継ぎました。平和行進リレー旗、横断幕を引き継いで通し行進者も岩手へ、さらに様々な団体の旗や平和行進リレー用グッズが手渡されました。うみねこ合唱団の十日市広志さんのアコーディオン伴奏で「原爆を許すまじ」を歌い引継集会を終えました。青森側参加者は 43 人でした。



金田一温泉駅前で岩手引継

Ⅲ　2016年３・１ビキニデー

2016年３・１ビキニデー報告

新婦人八戸支部・外城いと子

「核兵器のない世界へ新たな行動を　核の傘 No ！戦争しない日本を」というスローガンのもと、去る２月２９日～３月１日、静岡にて、２０１６年３・１ビキニデーが開催されました。私たち青森県団は６名の参加でした。

（１）１日目の会場は東静岡のグランシップという会館でした。全体集会の内容は次の通りです。

主催者あいさつ
来賓あいさつ
基調報告(安井正事務局長)
核兵器のない世界へ－被爆者・若者のアピール
核兵器のない世界へ行動を広げる各国のみなさん
ジェニー・クレッグさん－イギリス核軍縮運動
ジョゼフ・ガーソンさん－アメリカフレンズ奉仕委員会
特別発言
普天間基地撤去・辺野古への新基地建設阻止の沖縄県民のたたかい
東京電力福島第一原発事故から５年、福島のたたかいと決意
核兵器のない世界へ新たな行動を。「核の傘」ノー、戦争しない日本を

参加人数は 800 名と報告されましたが、実際はもっといるのではないかと思われるほどの熱く、盛り上がりのある集会でした(目標 1000 名とのこと)。



（２）次は分科会です。私たちは各々希望した分科会に分かれました。私は第 6 分科会の「ビキニ事件と原水爆禁止運動を学ぼう入門編」に出席。原水爆の恐ろしさをしっかりと学ぶことができました。水爆実験で被害に遭い、焼津に寄港した第 5 福竜丸の乗組員たちの様子を映像にしたＮＨＫのスライドを見てから討論となりました。

62 年前の当時、第 5 福竜丸の乗組員 23 名はなかなかマグロが捕れず、ビキニ環礁の方でとれるという情報を得て、20 日間のマグロ漁をし、帰ろうとした矢先にアメリカの水爆実験(ブラボー)を目の当たりにしたとのこと。その威力は広島に投下された原爆の 1000 倍もの破壊力に相当、そのためにサンゴ礁が吹き飛ばされて灰と化し、それに放射能が付着、死の灰としてマーシャル諸島一帯に降り、諸島の住民、白い灰を浴びた人が被爆しました。被爆した人たちは人間扱いされず、アメリカのモルモットにされた等、非道なアメリカに対しての告発がありました。人間の尊厳を守りたい、地球を守りたい。海はつながっている、きれいな海を残そうと核廃絶のために運動しているマーシャル諸島のトニー・デブルム前外相の発言がありました。

マーシャル諸島近海に降った死の灰で第 5 福竜丸の乗組員全員が被爆。焼津に帰航した際には、皮膚が焼けただれて全身が見られない状況だったとのこと。第 5 福竜丸の後から来て操業した船も、死の灰を浴び、内部被曝をしながら操業していたのです。

周辺海域では当時、およそ千隻が操業・航行していました。アメリカの圧力の下で政府が事件の幕引きに協力、(船体やマグロの)汚染検査はその年の暮れで打ち切られました。アメリカ政府は、200 万ドルの見舞金を出しましたが、見舞金ですから第５福竜丸の乗組員にもその後の補償はなく、他の船の乗組員は、補償も謝罪も、見舞い金すらなく放置されたのです。

第 6 分科会には 100 人以上が集まり、椅子を補充していました。三分の二の方が初めての参加で、60 歳以上の方が多かったです。トニー・デブルム氏、通訳の方、さらに参加者それぞれの貴重な経験が発言され、これからなすべきこと等を話し合い、時間が足りないくらいで、3 時間があっという間に過ぎました。

（3）3月1日午前9時半、焼津駅前から久保山愛吉さんの墓参行進が出発しました。商店街を通り抜け、広々とした漁港の岸壁にはマグロ船でしょうか、中型の白い船が１艘止まっていて、イカ釣り船とは違い豪華船に見えました。人家の多い沿道には春の花や青い空に映える黄色の大きな夏ミカン、咲き終わった梅、河津桜をみつけ、青森県とは違う季節に浮かれて目の前の小高い丘に向かうと、中腹に急性放射能症で亡くなった第5福竜丸の無線長・久保山愛吉さんのお墓がありました。お寺の前のテントには何十人もの関係者の方々が和尚さんの読経に手を合わせ、法要を営んでいました。参加者は和尚さんに誘導され、3列に並んでお参りしました。

（4）午後は、焼津市文化センターで「被災６２年２０１６年３・１ビキニデー集会」が行われました。主な内容は次の通りです。

◇第１部

・うたごえのみなさんによるオープニング

・主催者あいさつ(川本司郎・静岡県原水爆被害者の会会長)

・来賓あいさつ(中野弘道・焼津市長他)

・主催者報告(野口邦和・原水爆禁止世界大会実行委員会運営委員会代表)

◇第２部

・文化企画　朗読劇「ここが家だ」

この劇は、照明と幅広い白い布により、音楽に合わせてマグロ漁に出かけた船が大漁となって喜んでいる時に水爆実験に遭遇する、その様子の体験劇でした。

・被災６２年、ビキニ事件と今

・スペシャル対談「核兵器のない世界の実現をめざして」

・参加者企画「平和な世界に向けてリレートーク」

・ビキニ被災６２年、３・１ビキニデー集会アピールの採択

以上で閉幕となりました。とても盛りだくさんの内容で、充実した学びとなりました。運動に対しての確信を得たことをうれしく思います。送り出して下さりありがとうございました。